

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市誠訪町2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



求む！ ベテラン教職員の実践発表

教育支援課 上村 由美

私の好きなテレビドラマに「相棒」があります。水谷豊が演じる杉下右京が相棒とともに難事件を解決する刑事ドラマです。この秋からシーズン13が始まり、毎週、楽しみにしています。その中で、杉下右京のいる特命係に「ひまか？」という顔を出す角田課長という登場人物がいます。「ひまか？」と言いなながら世間話をするのですが、たえず気にかけて声をかける、茶目つ気もありながら、いざ、頼みごとをするとき、ことに応えてくれ頼りになる、そんな人物です。ある意味、あこがれの管理職像でもあります。

なぜ、このような前置きになったのかと申しますと、市内のベテランの先生方の力をお借りしたいと思ったからです。第2次四日市市学校教育ビジョンでは、問題解決能力の向上を重点目標に掲げています。昨年度「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」を市内の全教員に配付しました。これを校内研修等で積極的に活用して、問題解決能力の育成に向けた授業を日常的に行っていたことを推進しています。しかし、市内の経験豊富な先生方の中には、様々な教科・領域で、すでに問題解決能力を育むような授業をしている方が大勢みえるのではないかと思います。

ばらしく、多くの受講者の方から「2学期の授業づくりに生かしていきたい」との感想をいただきました。ベテランの先生方は伝えたい情報や経験を多く持つてみえます。校内研修やOJTの中で力を発揮していただいていると思います。しかし、校内にとどまることなく、若手教員が増加している四日市市において、「目指す教師像」となるような先生方の実践を広く発信していただく機会を設けることも必要です。自薦、他薦を問いません。来年度の研修講座でお話しいただける先生方、教育支援課まで「一報ください」。



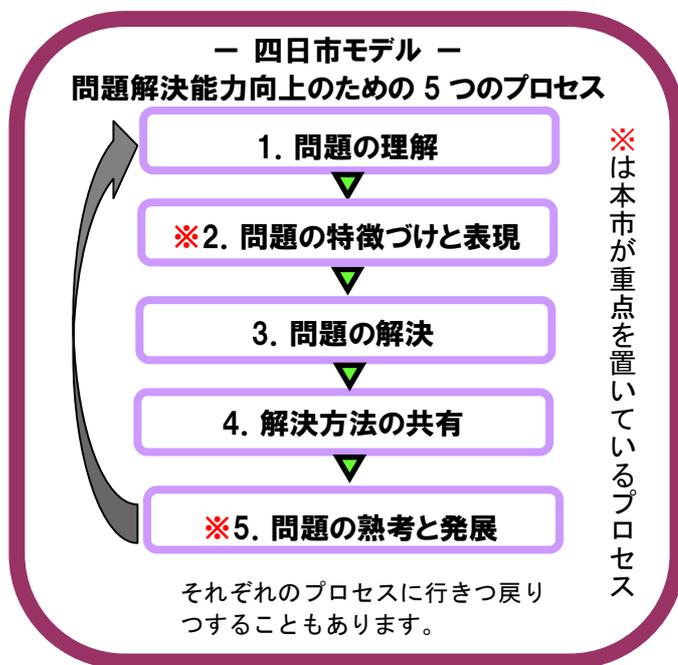
活用しよう！授業づくりガイドブック

四日市モデルの5つのプロセスを授業改善に役立てましょう



問題解決の5つのプロセスごとに適切な指導をすることにより子どもたちは、新しい知識・技能、思考力・判断力・表現力を習得し問題解決能力の向上に結びつくと考えています。

授業づくりガイドブックをもとに自分の授業を見直してみる、学年会等で読みあって理解を深めるなど、有効に活用していきましょう。



「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック」をもとにした実践発表

8月8日(金) 総合会館

四日市モデルの5つのプロセスを体験！

山手中学校 山下 英樹先生



中学校数学科での実践を模擬授業形式で発表していただきました。それぞれのプロセスで留意することや、課題の質・与え方などについてお話をいただきました。



それぞれのプロセスで、ヒントをもらい真剣に考えている自分に気づきました。問題を解決する時間をしっかりと授業の中に取り入れていきたいです。

国語科における問題解決的な授業づくりとは！

大谷台小学校 倉田 浩子先生

小学校国語科の実践で「子どもに力をつける授業づくりのポイント」や「論理的思考力」などについてお話しいただきました。また他教科へ活用していく実践についてもご紹介いただきました。



「授業で何を学ばせるのか」を常に念頭に入れた実践だからこそその発表なのだと感じました。教師が「研修する」「学ぶ」ことの大切さを強く感じました。



「ライフスキル教育」プログラムのすすめ

コミュニケーション人間関係調整力・自己開発研修として「ライフスキル教育」プログラム（小学校版・思春期版）を実施しています。

自分の思いを表現できないために周囲の友だちと適切に関われない、安易に物事を判断し行動してしまうことからトラブルになってしまう、自尊感情の低さから自分も相手も大切にできないなど様々な悩みをかかえる子どもたちがいます。

研修では「問題解決」や「意思決定」などのスキルを身につける学習プログラムの指導法を実践的に学びます。また、学校単位で受講することでさらに効果があがります。

◇ 来年度の研修申込みは教育支援課で受け付けています。

プログラムで学習する おもなスキル

- 🌸 コミュニケーション
- 🌸 感情のコントロール
- 🌸 意思決定
- 🌸 問題解決
- 🌸 仲間からの良くない誘いや薬物使用の圧力への対処
- 🌸 サービスラーニング
（自分の力を他者や社会のために役立てる）
- 🌸 目標設定

ライフ
スキル
学習

実践

よいよく生きるための価値観



（ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」プログラムパンフレットより）

富田小学校「ライフスキル教育」プログラム研修 ～小学校版～ 8月28・29日

寺本之人先生を講師に迎えて2日間の研修を行いました。グループワークを中心に多様なライフスキルを系統的に学びました。また、ワークショップでは授業をする側・受ける側の両方を体験することで、様々な気づきや学びを得ることができました。

【ワークショップの内容】

- プログラムの体験
- 概要の理解
- 実施時のポイント把握
- 参加者による模擬授業



人と人を結びつけ、生きる力を育む取り組みは、低学年から段階的に必要だと実感しました。

予想以上によかったです。授業・学級運営に活かせる内容でした。

☆全過程を修了された方には各学年の指導案・ハンドブック等のプログラム教材一式と修了書が渡されます。

ユニバーサルデザインの授業づくり

通常の学級に在籍する6.5%の児童生徒が、特別な教育的支援が必要であるという報告が、平成24年に文部科学省から発表されました。

特別支援教育とは、特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒を対象に行われるものです。特別な支援が必要な子どもたちにとってわかりやすい授業は、すべての子どもたちにとってわかりやすい授業（ユニバーサルデザイン）につながるといえます。ユニバーサルデザインの授業づくりに取り組んでみましょう。

＜ 市内小学校の実践例 ＞

見通しをもたせる



1時間の授業（45分 or 50分）の見通しをもたせる

子どもたちだけでなく、教師にとっても見通しをもって授業することは大切です。提示したことを途中で終わってしまうのはNGです。

言葉だけでなく、視覚に訴える

電子黒板や具体物を操作させ、視覚から情報を得ることで理解につながります。



視覚支援・具体物操作



具体的な指示



端的かつ具体的な指示を心がける

「ちゃんとしなさい」では、子どもたちはどうしてよいのかわかりません。「背中をイスの背もたれにつけましょう」など具体的な指示をしましょう。

学びやすい教室環境を整える

具体的な置き場所を示す掲示物などで指示がなくてもきれいに整理できます。

教室環境を整えることで、子どもたちが他のことに意識が向かず、学習に集中することにつながります。黒板の周辺もシンプルな掲示にすることでより授業に集中できる環境となります。

わかりやすい掲示

